

【ESD 学習支援活動】

奈良市立富雄第三小中学校 第2回ユネスコ委員会 支援報告書

報告者 英語教育専修 修士1年 糸綾香

1. 日時・場所 平成29年5月11日(水) 14:00~16:00、奈良市立富雄第三小中学校 第一理科室
2. 参加者 英語教育専修 修士1年 糸綾香 数学教育専修 学部4年 杉田岳史
社会科教育専修 学部2年 高田理生 国語教育専修 学部2年 丸本まりな
次世代教員養成センター 准教授 中澤静男
奈良市立富雄第三小中学校 教員、児童・生徒

3. 内容

- (1) 本日の活動の説明、ビオトープについて
- (2) 縦割り班での話し合い
- (3) まとめ

4. 活動支援報告

奈良市立富雄第三小中学校でのユネスコ委員会の第2回目の活動を行った。今回は、この一年間ユネスコ委員会でのどのような活動をしていくかを5年生から9年生の縦割り6班に分かれて、KJ法式で話し合いを行った。話し合った内容としては、「広報」、「ビオトープ」、「ハリソン校との交流」の3点について、常時的活動とイベント的活動を考え、出たアイデアを全体で共有し、その中から良いと思ったアイデアを抽出していくといったものであった。大学生は、一人一班に入り話し合いのサポートを行った。



班に入り話し合いをサポート

今回の活動を二つの観点から報告する。第一に議論を活発にするための知識の大切さ、第二に継続して関わることで気づくことについてである。

第一の知識の大切さについてである。今回はビオトープについて、より詳しく考えていく重要な段階であった。参加学生は事前に中澤先生より、ビオトープが学校にある意義、ビオトープを通して子どもたちが学べること、生物指標について講義をしていただき、当日はある程度の知識を持って支援活動を行うことができた。そのため、児童から現在ビオトープにはザリガニやフナがいるという発言があった際には、実はそうした生物は、美しい自然とは正反対の生き物であるといった気づきを与えることができた。児童・生徒のさらなるアイデアを引き出す手助けになったと感じている。



中澤先生によるビオトープの説明

第二の継続して関わることで気づくことについてである。普段の野外活動支援などでは、当日一回きりの子どもたちとの出会いであり、普段がどのような姿で、野外活動中はどう変化したか気づくことができない。しかし、今回のように継続して関わることで、前回見えなかった子どもたちの良い所に気づくことができた。例えば、9年生をはじめ、中学生たちは前回比較的に物静かな印象であった。しかし今回は多くの中学生が班のリーダーとして話し合いを進めていこうと頑張っている様子を見ることができた。一回の活動では見えない、子どもたちの様々な姿をこれからも見ることができるのはとても楽しみである。

次回の活動では、大学生側もより知識を身につけ、子どもたちがより活動に積極的になれるようにサポートをしていきたい